

アスレの森においてよ

学校長 梅田 比奈子

4月18日は、瀬ヶ崎小学校の65回目のお誕生日でした。六浦小学校から別れて、地域のみなさんが校庭を整備する等、みんなの思いがこもった瀬ヶ崎小学校です。今年の開港記念式には、小学校のアスレの森を作る時に関わった物井さんに「アスレの森」についてお話していただきました。

「アスレの森」は、かつて、わんぱくランドでした。横浜でも数少ない学校敷地内にあるアスレチック。これは、昭和58年5月に地域の皆さんの協力で完成しました。ターザンロープやロングすべり台など15の遊具があり、子どもたちの大好きな場所。休み時間になると子どもたちは元気にアスレに飛び出していき、思いっきり身体を動かしていました。時には、虫や小さなへびをつかまえてきたり、どんぐりを拾ってきたりし、自然を満喫していたと思います。物井さんの4人のお子さんも、瀬ヶ崎小学校に通っていた頃、「わんぱくランド」が大好きで、よく遊んでいたそうです。



その「わんぱくランド」が、老朽化して、どうしようかという話し合いが何度ももたれたのですが、その当初から一緒に話し合いに参加してくださっていたのが物井さんです。実は、私も教員として、その話し合いに参加していました。

「遊具は、直す事はできない。」「安全性を確保したい。」「自然を大切にしたい。」そういった皆さんの思いを出し合い、活用委員会が立ち上がりました。そして、何度も話し合っ、豊かな森を観察できる「アスレの森」になったのです。子どもたちは、10年前の6年生がつくった「アスレの森」の看板に、物井さんのお子さんがつくった「クリオ」というキャラクターがいるというお話をうかがい、興味がさらに高まりました。



瀬ヶ崎小学校60周年には、地域の方PTA、教職員でアスレの森の整備を行ないました。また、関東学院の学生の皆さんが、毎年、「アスレの森であそぼう」というイベントを開催してくださり、アスレの森の自然を生かした遊びを一緒に行なってくれています。物井さんも、今、アスレに来る鳥たちのことや植物、そして、その他様々な生き物が見られる事をお話してくださいました。

子どもたちは、地域の方々、卒業生、今まで関わってくださったPTAのみなさん、そんな多くの人たちの思いがこもった「アスレの森」であることをあらためて感じたのではないかと思います。子どもたちの感想の中から、一部紹介します。

- 今日、ワンパランドの話をしてくれてありがとうございます。物井さんが、アスレの森のことを教えてくれたので、ぼくは、もっとアスレの森に行きたくなりました。ウグイスの泣き声などを聞いて自然をもっと知りたくなりました。(6年)
- アスレの森のことを教えてくれて、ありがとうございます。わたしは、アスレチックをやりたかったけど、こわれて、ちょっと悲しかったけど、遊具はこんなのがあったよと教えてくれたので、アスレチックをやったみたいなきもちになりました。本当にアスレの森の楽しさが伝わりました。(3年)

アスレの森だけでなく、瀬小にはたくさんの宝物があります。今年度も、人、物、場所等・・・宝物を磨いて、ふやしていきたいと思います。